深入山

標高1,153メートルの深入山は三段峡の東、西中国山地国定公園内に位置しています。春の花々が芽吹く前の毎年4月、深入山の草原は燃やされます。この慣習は山焼きと呼ばれています。このような人の管理下で草原を燃やす習わしは、少なくとも1749年から行われており、これにより山菜の成長、牛の放牧、牧草地のためのスペースが生まれています。山焼きが行われる度、草原の景観や希少な植物が再び姿を現し、それらの保存に役立っています。このように、山焼きの習わしは人間と自然の共存を助けているのです。

深入山は春の山焼きと初夏の梅雨の後、大量の水を吸収します。夏が近づくにつれ、山の景観は燃焼した黒から牧歌的な緑へと変容します。燃えた草の灰は肥料の役目を果たし、害虫を駆除し、深入山特有の生態系の維持に役立っています。深入山では希少な蝶、花々、氷河期までさかのぼる古代植物が成長しています。ここでは180種類以上の野生植物が育っています。木々は切り倒されるのではなく燃やされるので、地中に種が残って木々は毎年、再び生えることができます。

深入山の頂上までは歩いて1時間ほどで、初心者にも適しています。山頂に着くと、西中国山地の山並みを見渡すことができます。初夏の日の出のあと、運が良ければ遠くの頂に出現する雲海を見られます。10月の終わりから11月半ばには、紅葉を楽しむことができ、冬にはクロスカントリースキーを楽しむ人もいます。山のふもとにはキャンプ場があり、早起きして山歩きを楽しむ人にとって、理想の宿泊場所といえるでしょう。